

和道流範士師範九段、高松浩二先生

令和2年10月5日、ご逝去

ご逝去の報に接し、心よりご冥福をお祈り致します



高松浩二先生は東京農業大学在学中に同学空手道部にて和道流を始められ、その当時、週に1度は必ず初代最高師範から直接手解きを受けられていて、ブラジル移住のため日本から船で出港される時点で当時の五段位を取得されていました。

1956年12月に極寒の太平洋を神戸より約2ヶ月を掛けてブラジルに向け船で旅立ちました。船の中では寒さとの格闘を含め大変ご苦勞をされながらも、時には子供等に空手を教えながらサントス港を目指しました。

先生の乗船されたブラジル移民船は1968年まで続けられ、月に2回サントスの港に着港され、毎回1000人位の日本人移民がブラジルの新天地で新しい生活を夢見て移住を決断されていました。港に着いた人々は一度、移民局の宿に入れられて、そこからブラジル各地へと送られて行きましたが、手付かずのジャングルの僻地へと送られる人も多く、想像していた生活とは程遠い環境に放り込まれたケースも多々ありました。

乗船された船中には空手や柔道の有段者も何人か同船していましたが、二段位所持者が殆どで高松先生のように五段位所持されている者はいませんでした。

サンパウロ州で空手指導を始め、和道流の発展に大変な苦勞をされながらも、和道流と空手をブラジルの地に根付かせることに尽力され、ブラジル空手道連盟の技術顧問等を務められる程にブラジルの空手界においても大変重要な人物でありました。

先生がブラジルの地にて64年間心血を注がれた、ブラジル和道流は現在30を超える支部、分会となり会員数も3000人を超える大きな団体へと成長されました。今後は御子息長男のセルジオ高松氏が、父の意を継いでブラジルの空手と和道流の更なる発展を目指して行かれます。

高松浩二先生のご冥福を謹んで心よりお祈りいたします。